

別紙 1 - 1

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 Su Myat Cho

論 文 題 目

A cross-sectional study on tobacco advertising, promotion and sponsorship (TAPS) and violations of tobacco sale regulations in Myanmar: Do these factors affect current tobacco use among Myanmar high school students?

(ミャンマーにおけるタバコ広告、販売促進、後援とタバコ販売規制違反に関する横断研究: これらの要因はミャンマーの高校生の現タバコ使用に影響するか)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委員

若 井 建 志 

名古屋大学教授

委員

加 藤 昌 志 

名古屋大学教授

委員

石 井 晃 

名古屋大学教授

指導教授

濱 嶋 信 之 

論文審査の結果の要旨

別紙1-2

タバコ広告、販売促進、後援(TAPS)について、ミャンマー国の高校生を対象にアンケートを用いた横断的研究を2015年11月に行った。喫煙、又は、噛みタバコ使用をタバコ使用と定義した。全対象の内、90.9%がTAPSに接する機会を持っていた。現在のタバコ使用は、14歳以上、男性、TAPSへの暴露、学校から100フィート以内でタバコが販売されている現場を見た経験、未成年へのタバコ販売、或いは譲渡現場を見た経験と関連した。タバコに関する健康教育を受けた経験、及び、タバコに対する正しい認識を持つことが、現在のタバコ使用と負に関連した。TAPSはタバコ規制法による制限を受けるが、違反事例の報告や罰則の適応は一般的では無い。TAPSとタバコ販売の規制は効果的なタバコ規制方法であるが、それらがミャンマー国においては十分に機能していない事を明らかにした。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 現在のタバコ規制法では、噛みタバコは喫煙用タバコに比べ、製造、販売等を含め、その制限が十分に定義されておらず、若年者の使用に抵抗は少ない。男性は女性に比べて噛みタバコの使用が多い。噛みタバコに対する規制の強化が必要と考えられる。
2. 現在に至るまでミャンマー国で行われたタバコ使用に関する調査は、14歳より以前にタバコ使用が開始されたと報告しており、多くの調査研究において対象は高校生に設定されている。噛みタバコは喫煙に比べ危険性が少ないという誤った認識が広まっており、多くの場合に噛みタバコを若年で開始することが否定的に受け止められていないためである。また、噛みタバコは未成年による販売、譲渡に対して規制を受けない。従って、タバコ使用開始年齢に近い高校生を研究対象とすることがタバコ使用に関する研究に有意義である。
3. National Education Strategic Plan(2016-2021)のデータにおいて、高校への進学率は32.1% (男:30.4%、女:33.8%)であった。

本研究は、ミャンマー国のたばこ規制を実効性のあるものにする上で、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士(医学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

別紙2

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	Su Myat Cho
試験担当者	主査	若井 達志	副査 ₁	加藤 昌志
	副査 ₂	石井 晃	指導教授	濱嶋 信之
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 噛みタバコ使用に関連する因子について2. 研究対象について3. 高校への進学率について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、医療行政学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				